
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター
令和6年度 年報



はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地に加えて、令和3年3月には厚岸霧多布昆布森国定公園が指定される等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

今年度の主な活動内容がまとまりましたので、ご覧下さい。

目次	頁
森林環境教育の取組み	・・・・・・・・ 1
【学校林活動】	
地域との連携・普及啓発等の取組み	・・・・・・・・ 4
【地域と連携した取組み】【普及啓発の取組み】【広報活動】	
自然再生・生物多様性保全の取組み	・・・・・・・・ 7
【雷別ドングリ倶楽部】【釧路湿原自然再生協議会】	
活動区域及び所在地	

森林環境教育の取組み

標茶町立虹別中学校

森林講話 5月10日(金曜日)

標茶町立虹別中学校において、環境教育の時間で「森林講話」を行いました。この取組みは、令和4年度より毎年実施しており、今年度は身近な樹木、循環する林業について、3年生10名にパワーポイントの資料で説明しました。

まず、草と木の違い、身近で見られる樹木の解説を行いました。標茶町の町の木である「ナラ」を説明したところ、生徒の皆さんは樹名の由来等、熱心にメモを取っていました。

その後、林業は50~100年のサイクルで「伐って・使って・植えて・育てる」循環する産業であること、将来の子どもたちのために、森林を整備していくことが大切であることを理解してもらえたと考えています。

最後にアクティビティとして、技術普及課で作成した「北の森カルタ」を行ったところ、生徒からは、取った札の頭文字で自分の名前ができたと言っていました。

今回の取組みを通じて、生徒の皆さんが森林の良き理解者になってもらえれば、うれしく思います。



▽「森林講話」の様子



▽「北の森カルタ」で熱中する様子



【学校林活動】

標茶町立中茶安別小中学校

標茶町立中茶安別小中学校は、標茶町の市街地から南東約11kmの中茶安別地区に所在し、児童・生徒数は約20名の小規模校で、小学校と中学校が併設されています。

学校林(愛称♪るんるんフォレスト♪)は、同校の西方約2kmに位置し、森林内には、案内板・林道・遊歩道・樹名板・巣箱・ツリーハウス等が整備されており、同校が策定した「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験活動を実施しています。また、同校は開校間もない昭和6年から現在まで、植樹活動に取り組むとともに、緑の少年団活動を通じて各種催しに参加する等、積極的に外部との交流を行っており、これまでの緑化推進の功労と森林環境教育の実践が認められ、平成31年に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

当センターは、平成18年度から学校林活動に携わっており、令和6年度は、春・夏・秋・冬4回の体験学習及び木工クラフト(ミニツリーづくり)等の活動を企画・支援しました。

春の学校林活動 5月20日（月曜日）

第1回目の活動は、「学校林の散策」と「植樹・保護管の被覆」が行われました。

まず始めに、当センター職員が散策路周辺の樹木の特徴について説明し、続いて、昨年伐採したカラマツの伐根の年輪を数え、年輪は63本ありました。

その後、標茶町森林組合から「植樹」、当センターから「保護管被覆」について説明しました。

カラマツは枝が多く、保護管の中に納めるのに、児童・生徒や保護者の方々は苦勞していましたが、願いを込めながら被覆していました。



▽伐根の年輪を数える様子

夏の学校林活動 8月29日（木曜日）

「樹木のタネの運ばれ方」を学んだ後、各グループでの活動となりました。

低学年グループは、キットや折り紙を使って、アルソミトラやラワン等のタネの模型を作成し、完成したものを飛ばして、タネの飛び方を体感しました。

高学年グループは、当センターで選木した校庭の8樹種について、一人一枚、樹名板を作成しました。分かりやすく個性的な樹名板が完成しました。

児童・生徒からは、「タネをたくさん飛ばすことができた。」や「今まで知らなかったことも学べて良かった。」と感想がありました。



▽完成した樹名板

秋の学校林活動 10月28日（月曜日）

低学年は小学1~4年生を対象に「校庭の樹木の観察」について、パワーポイントで説明した後、校庭で樹木やハンノキの実の観察を行い、秋の樹木を楽しく学んでいました。

高学年は小学5~中学3年生を対象に「樹木図鑑を作ろう」のテーマで行いました。まず、夏の活動で作成した樹名板を樹木に取付け、その後、樹木の太さ（胸高直径）を輪尺で、樹木の高さ（樹高）をブルーメライスと巻き尺で測樹し、最後に材積の求め方や材積表について学び、「樹木図鑑」を完成させました。

盛り沢山の内容を無事終えることができ、生徒からは「樹木の測り方を知ることができて良かった。」と感想がありました。



▽低学年の樹木観察の様子



▽高学年の測樹の様子

ミニツリーづくり 12月3日（火曜日）

今回は、小学1~6年生の21名を対象に「ミニツリーの作成体験」を実施しました。

この活動は、今年で4回目となり、当日は授業参観日で保護者の方々が見守る中、子どもたちはマツボックリやドングリ、木の枝等の森林の恵みを自在に組合わせて、ミニツリーや森林の生き物等、創造性のある素晴らしい作品を数多く作成し、会場は笑顔あふれる和やかな雰囲気になっていました。

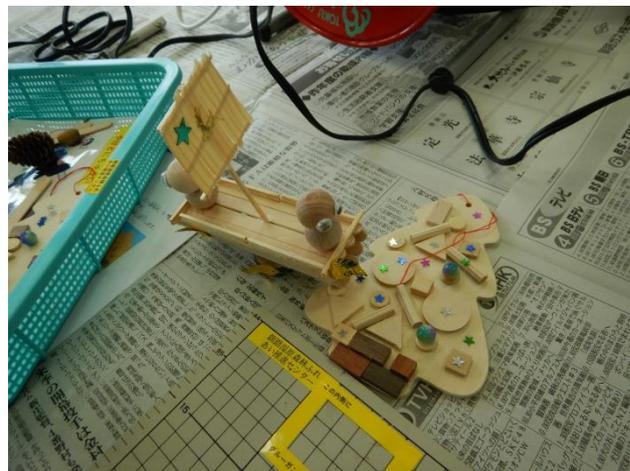
さらに、今回は木製の「オーナメント」と「フォトフレーム」の作成も取入れ、保護者の方々からは、「子どもの自由な発想力ってすごいですね。」や「どこに飾ろうか。」といった声が聞かれました。

次々とアイデアを生み出し、手を止めることなく取組む子どもたちの姿を目の当たりにし、発想力と想像力の豊かさに感服しました。

完成した作品が、各家庭での楽しいひとときや森林と自然への興味を深めるきっかけになってくれれば、大変うれしく思います。



▽作成の様子



▽完成した作品の様子

冬の学校林活動 2月19日（水曜日）

小学3~4年生の12名を対象として「スノートレッキング体験」を実施しました。

当センターで初めての試みであり、学校林での予定でしたが、積雪状況等を勘案し、校庭での実施に変更しました。

まず、体育館で雪上に見える足跡、冬芽と樹木の特徴をクイズで学んでもらいました。

その後、校庭でスノーシューを履いて、動物の足跡や冬芽の観察を行いました。

子どもたちは、スノーシューを履いて雪の上を歩いたことが、本当に楽しかったようで、雪上にある動物の足跡や冬芽について、今までなかった新たな視点で、学校の周りの自然を見ることができたことも大きな学びだったと思います。



▽スノーシューを楽しむ様子

地域との連携・普及啓発等の取組み



【地域と連携した取組み】

釧路市こども遊学館

ふれあい木工クラフト

4月27・28日（土・日曜日）

釧路市こども遊学館で、GW イベント 2024「木のおもちゃであそぼう！」が開催されました。

当センターは、4月27・28日の2日間、マツボックリやドングリ、木の枝、輪切りといった森林の素材を使ったふれあい木工クラフトを開催しました。

当日は、幅広い年代の方々が木工クラフトに熱中している姿が見られ、森林の恵みを存分に使ったフォトフレームやタンチョウの作品等、完成したものと一緒に笑顔で写真を撮る姿が印象的でした。

鶴居村

木育ワークショップ 7月20日（土曜日）

わんぱくアドベンチャークラブ7月講座「木育ワークショップ」の活動支援を行いました。

この取組みは、鶴居村教育委員会が、実施しており、16名の参加がありました。

今年は、風で運ばれるタネについての説明、タネの模型作りとフォトフレームの飾付けを行いました。

今回の活動を通じて、森林に親しみを持ってもらえれば、うれしく思います。

白糠町

第32回カミングパラダイス 9月8日（日曜日）

9月7・8日の2日間、白糠町のハミングロードで、「第32回カミングパラダイス」が開催されました。

この催しは、白糠駅前の南通り商店街を歩行者天国として開放し行われるものです。

当センターは、8日にマツボックリや木の枝等の森林の恵みで、木工クラフトやフォトフレームの飾付けを行いました。当センターのブースに訪れた子どもたちは、自由な発想で思い思いの作品を作っており、エゾシカやタンチョウ等の森林の動物、白糠町らしさを感じられる羊を作る親子連れもいて、どの作品も個性が光る素晴らしいものでした。



▽木工クラフトの様子



▽タネの模型作りの様子



▽カミングパラダイスの様子



▽白糠らしい羊の作品

釧路市・釧路森林資源活用円卓会議

くしろ木づなフェスティバル 10月26・27日（土・日曜日）

5年に1度であり、3回目の「くしろ木づなフェスティバル2024」が開催されました。

今回は、木を「見て」「触れて」「感じる」体験を通じて、釧路の「木づな」を創り、釧路産木材の積極的な活用を促すことを目的として開催されました。

会場では、道産材を使った車作り等の38ブースの展開、ステージでは「丸太カット」を始めとして、演奏やダンス、「森林戦士セバスチャンショー」等、屋外でも高性能林業機械の試乗やチェーンソーアートの実演が行われ、多くの来場者で賑わっていました。

当センターは、根釧西部署のお山ん画とリン子ちゃんの等身大パネルの展示と併せて、マツボックリやドングリ等の森林の素材を使った木工クラフトを開催し、2日間で、約100名の親子連れや子どもたちが、思い思いの作品を楽しそうに作っていました。

「くしろ木づなフェスティバル」に参加し、釧路の森林・林業・木材産業関係者と地域住民との賑わいを感じるとともに、多くの子どもたちに森林の恵みに触れてもらい、少しでも森林や木材に興味を持ってもらえれば良いと思いました。



▽根釧西部署と当センターブースの様子



▽高性能林業機械実演の様子

釧路町村会・くしろ森と緑の会

木育・森づくりフェア 11月16日（土曜日）

イオンモール釧路昭和で、「2024 木育・森づくりフェア」が開催されました。

これは、地域の方々に森林づくりへの関心を高めてもらうための催しで、釧路根室管内の木育活動・植樹活動等の紹介、「木育広場」等が出展され、多くの来場者で賑わっていました。

当センターは16日に、根釧西部署とマツボックリやドングリ、木の枝等の森林の素材を使った木工クラフトを行い、約50名の親子連れや子どもたちが、木の香りを感じながらエゾシカやタンチョウの森林の動物、ミニツリーを作成していました。

「木工クラフトを楽しみにしていました。」や「まだ、作りたい！」等の感想があり、木の良さや温もりを改めて感じていただけた催しとなりました。



▽木育・森づくりフェアの様子



【普及啓発の取組み】

JICA 中央アジア国別研修 8月27日（火曜日） 雷別自然再生事業地

JICA による 2024 年度「中央アジア国別研修」の現地見学が行われました。

この研修は、湿地保護に従事する中央・地方政府の関係者が、地域の開発と環境、生物多様性保全に貢献することを目的として実施されています。

まず笹地 11 で、当センターの活動区域図を示し、当地区の概要、森林再生の方針や保護管被覆による成果を説明しました。次に笹地 10 へ移動し、令和 3 年に植栽した広葉樹について、生育状況を説明しました。

最後に研修員から「この研修では、森林再生地の見学を楽しみにしていました。活着率が 90%を超えていることは、素晴らしいです。ここで得た知見を今後に生かしていきたい。」とお礼の言葉をいただき、記念撮影をしました。



▽自動撮影カメラの説明を聞く様子

長野県林業大学校生見学 6月21日（金曜日） パイロットフォレスト

京都大学・北海道大学学生見学 9月17日（火曜日）パイロットフォレスト

京大及び北大の学生等 30 名が、「パイロットフォレスト」を見学しました。

これは京大と北大が別寒辺牛川を対象として実施している「森里海連環学実習」で訪れたものです。

始めに、研修棟でパイロットフォレスト造成時の様子を記録した DVD を視聴し、機械展示棟で当時、使用していた機械を見学し、望楼へ移動しました。

学生の皆さんからは、「もともと、どのような樹種が生育していましたか？」や「林業機械の動いているところを見てみたい。」等の質問や感想があり、今回の見学が森・川・里・海のつながりを考える一助になればと考えています。



▽DVD を視聴する学生の様子



【広報活動】

当センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページ (https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html) と広報誌「飛鶴の森林から」で情報発信しており、令和 6 年度は No.167～No.175 を発行しましたので、是非、ご覧下さい。

また、北海道森林管理局では Instagram と Facebook を開設していますので併せて、ご覧下さい。



北海道森林管理局 Instagram・Facebook

自然再生・生物多様性保全の取組み



【雷別ドングリ倶楽部】

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（標茶町雷別）をフィールドとして、平成19年7月から「広葉樹の森林づくり」（森林再生）等に取り組んでいる一般公募による会員の方々です。今年度は会員26名で森林づくり活動等を4回行いました。

広葉樹の森林づくり【第1回活動】 6月25日（火曜日）雷別自然再生事業地笹地10

今年度1回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催し、広葉樹の森林づくりを行いました。

当日は会員18名が参加し、ミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダを約70本植栽するとともに、野生生物から植栽木を保護するため、保護管で被覆しました。

植栽箇所では、当センター職員から、植樹の仕方や保護管の組立て・設置の説明があり、会員の皆さんは青空が広がる天候のもと活動し、準備した苗木の植樹、保護管の被覆を無事、終了しました。

会員の方からは、「今日、植えた木の名前を覚えることができました。」や「苗木が無事育ってほしい。」等の声がありました。

今回、初参加の会員の方も、ベテラン会員の方も、心地よい汗をかきながら、森林再生に取り組んでいました。



▽植樹の様子

広葉樹の森林づくり【第2回活動】 9月25日（水曜日）雷別自然再生事業地笹地10

今年度2回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催し、広葉樹の森林づくりを行いました。

当日は会員20名が参加し、郷土樹種であるミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダを合計90本植栽するとともに、野生生物から植栽木を保護するため、保護管で被覆しました。

始めに、当センター職員から植樹方法や保護管の組立て方等を説明した後、会員の方々は苗木を手際良く植えていました。昼食後は、植栽木に保護管を被覆し、予定していた作業を無事、終了しました。

参加者からは、「エゾシカだけではなく、ウサギの食害にも注意を払う必要があるんですね。勉強になりました。」や「来年も植樹に参加したいと思います。」等の声がありました。

秋の訪れが感じられる雷別国有林で、あちらこちらで談笑する様子も見られ、会員の方々の交流がより深まった一日でした。



▽保護管組立ての様子

自然観察【第3回活動】 10月23日（水曜日）中標津町緑ヶ丘森林公園

中標津町緑ヶ丘森林公園で、今年度3回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催し、会員18名の参加を得て自然観察を行いました。

この公園は、中標津町市街地の北部に隣接する町有林の中にあり、園内のほとんどが天然林で、キャンプ場や散策路等が整備された町民憩いの場となっています。

まず始めに、当センター職員が園内にある約20本の見本木を解説しました。この見本林は、昭和60年の国際森林年にヤチダモ、エゾヤマザクラ等が、当時の根室支庁と緑化推進委員会により記念植樹されたものです。

続いて、園内の散策路へ歩みを進め、林内の樹木を観察しました。会員の方々は、熱心に樹木解説に耳を傾けながら、自然観察を満喫している様子でした。

「紅葉が遅れていたが、園内が素晴らしかった。」や「違う時期に訪れたい。」等の声が寄せられていました。

当日は、雨予報でしたが、昼食時まで雨は降らず、当センターの「テルテル坊主」君も活躍しました。



▽見本木の解説を聞く参加者の様子



▽園内の樹木解説を聞く参加者の様子

次年度の計画を検討【第4回活動】 2月5日（水曜日）根釧西部署会議室

今年度4回目の「雷別ドングリ倶楽部」を根釧西部署会議室で開催しました。

今年度の活動を振り返り、次年度の計画を検討するために行ったもので、前日に釧路では珍しく50cm程の大雪となりましたが、10名の参加がありました。

令和6年度の活動の振り返りを行うとともに、令和7年度の活動計画（案）を説明しました。来年度の自然観察箇所は「パイロットフォレスト国有林（厚岸町太田）」に決まりました。

会員の方々からは「過去に植栽した箇所の生育状況を観察したい。」「自然観察に時間をかけて行ってほしい。」や「樹木の名前がなかなか覚えられない。」等のご意見とご要望がありました。

さらに、植栽時期や被覆した保護管のこれからの取扱いについて意見交換を行い、これらを通じて、「雷別ドングリ倶楽部」の活動をより良くしていきたいと考えています。



▽第4回「雷別ドングリ倶楽部」の様子

公募植樹イベント

雷別へ植樹に行こう Yo! 6月29日(土曜日) 雷別自然再生事業地笹地10

今回は地域の皆様と「広葉樹の森林づくり」を行いました。

始めに、当センター職員から、作業に当たっての注意事項や植付方法を説明した後、植栽箇所へ移動しました。笹の根が張っていましたが、ミズナラ・ヤチダモ・キハダ・カツラ約30本を植栽しました。

次に、植栽木をエゾシカやエゾユキウサギ等の野生動物の食害から守るために、保護管の組立てと被覆を行いました。

その後、パイロットフォレストへ移動し、参加者の方々は、造成過程や当時の様子等の説明を受けながら最上階を目指しました。

参加者からは「来年も参加したい」という声もあり、天候にも恵まれ、地域の皆様と広葉樹の森林づくりができた、有意義な活動となりました。



▽望楼と参加者

西松建設株式会社

企業との協働による広葉樹の森林づくり 9月28日(土曜日) 雷別自然再生事業地笹地10

雷別自然再生事業地で「広葉樹の森林づくり」を支援しました。これは、社会貢献活動の一環として自然再生の取組みを行っているもので、今回で第7回目となります。

当日はミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダの110本を植樹するとともに、植栽木を野生動物の食害から保護するため、生分解性の保護管で被覆し、今回で累計1000本を超える節目となり、参加者の方々は、植樹班と保護管の組立て班に分かれて活動に取り組み、植樹と保護管の被覆は予定時間より早く終了しました。

参加者からは、「貴重な経験ができた。」や「植樹した全景は壮観だった。」等の感想をいただき、植樹箇所の風景を写真に収めている方もいました。

これからも、企業と連携した広葉樹の森林づくりに取組みたいと考えています。



▽保護管組立て等の様子



▽集合写真



【釧路湿原自然再生協議会】

小委員会の再編成に係る第1回合同事務局会議 7月3日（水曜日）釧路地方合同庁舎

小委員会の再編成に係る第2回合同事務局会議 11月28日（木曜日）釧路地方合同庁舎

生態系再生小委員会「第1回」 2月17日（月曜日）釧路地方合同庁舎

旧森林再生小委員会が釧路地方合同庁舎で開催されました。

これは「釧路湿原自然再生協議会」が、令和6年10月に7つの小委員会について、「生物環境」「物理・化学環境」「社会・経済環境」の3分野に再編することとなり、今回は生物環境分野の「湿原再生」「河川環境再生」「森林再生」の3小委員会が開催されたものです。

議事では各小委員会から、事業の成果と今後の予定等の報告と併せて、意見交換が行われました。

この他、これまで取組んできたそれぞれの実施主体の各事業を継続するとともに、釧路湿原における生物多様性の保全、気候変動への対応を検討すること等が確認されるとともに、新しい委員長と委員長代理が選出されました。なお、小委員会の新たな名称は「生態系再生小委員会」に決まりました。



▽小委員会開催の様子

釧路湿原自然再生協議会「第31回」 3月7日（金曜日）釧路市観光国際交流センター

釧路湿原自然再生協議会が、釧路市観光国際交流センターとWeb配信で開催されました。

当日は、第12期前期の協議会構成員の公募結果や会長と会長代理の選出があり、会長は中村太士北海道大学大学院名誉教授に、引続き担っていただくこととなりました。

また、各小委員会からは、再編後の基本方針と実施内容と併せて、湿原再生・河川環境再生・森林再生小委員会は「生態系再生」、土砂流入・水循環小委員会は「土砂流入・水循環」、再生普及・地域づくり小委員会は「みんなの湿原」と名称が報告されました。

次に、各取組みの実施状況や今後の予定等の説明が行われ、当センターは、雷別地区自然再生事業地で森林再生に係るこれまでの経過や実施状況、委員からの意見と対応方針を報告しました。

最後に「釧路湿原自然再生全体構想」の見直しについて、社会環境の変化や改定後10年間の取組みの評価等を反映させる必要があり、次年度から改定作業に着手したいと事務局から説明があり委員の了承を得て、協議会は滞りなく終了しました。



▽協議会開催の様子

活動区域及び所在地

当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林（釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町の1市6町1村）が主な活動区域です。



林野庁 北海道森林管理局
<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html>

釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号
 【TEL】0154-44-0533 【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp
https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



表紙：標茶町立中茶安別小中学校の冬芽の観察の様子です。詳細は3頁をご覧ください。